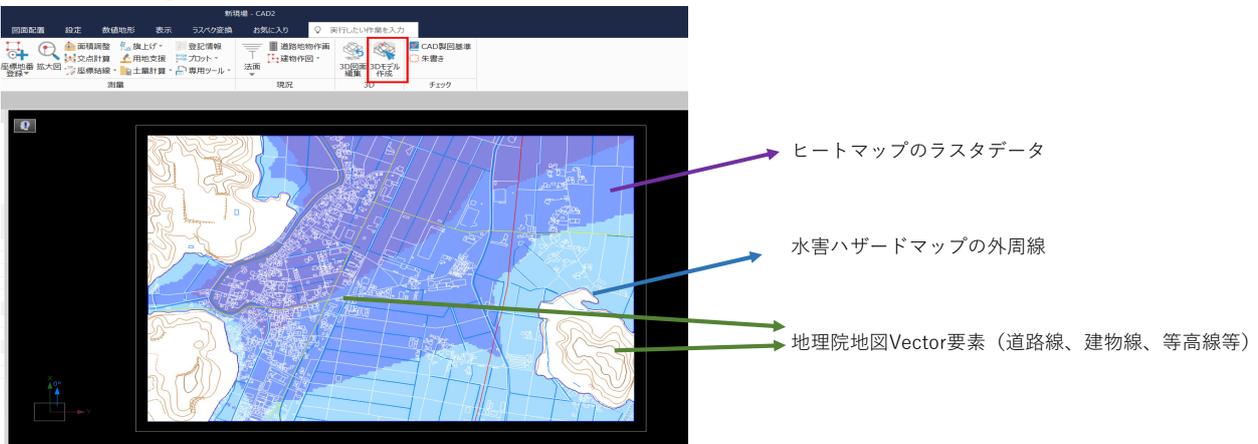


◆水害ハザードマップ-3Dモデル活用-VR (TREND-ONE⇒TREND-CORE/VR)

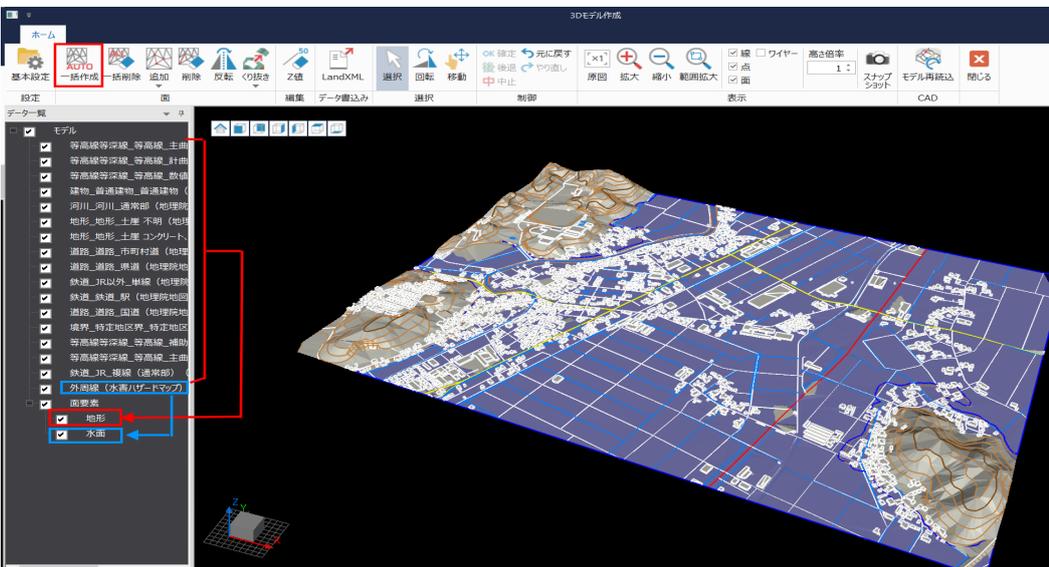
①メインの現場プロットから、地理院地図Vectorと水害ハザードマップを表示した状態で「簡易CAD配置」を実行



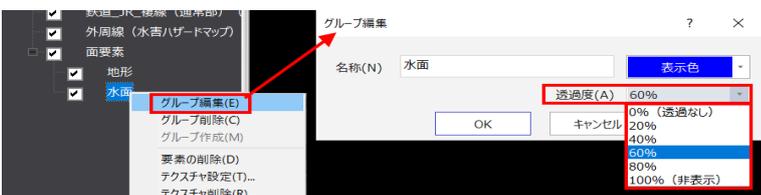
②指定範囲の地理院地図Vector要素と水害ハザードマップの外周線、ヒートマップのラスタがCADに配置されるこの状態で「3Dモデル作成」を実行



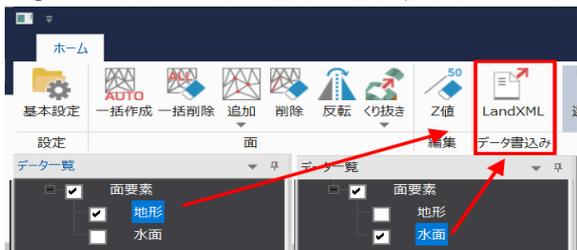
③面の「一括作成」コマンド等を用いて、地理院地図Vectorの要素、水害ハザードマップの外周線からそれぞれ面を作成



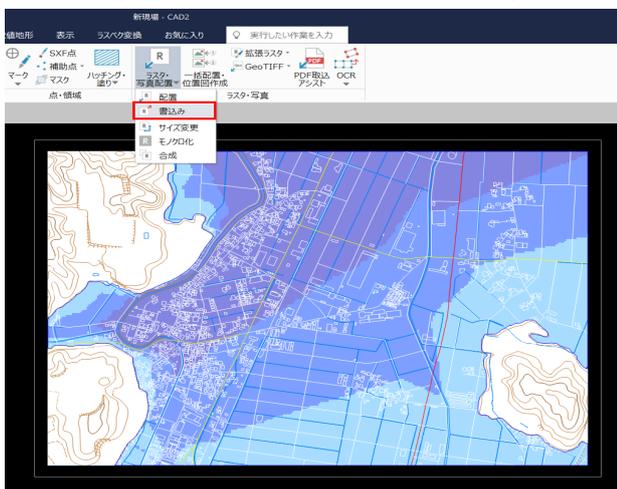
※Ver.5より、面要素に関して透過度が設定可能となったため、水面を透過させて下の地形を見せることも可能



④「LandXML」データ書き込みで作成した面要素を出力（表示されている面が出力されるため、地形と水面で表示を切り替えてそれぞれ出力する）



⑤CADアプリで、CAD配置した、ヒートマップのラスターデータも出力しておく



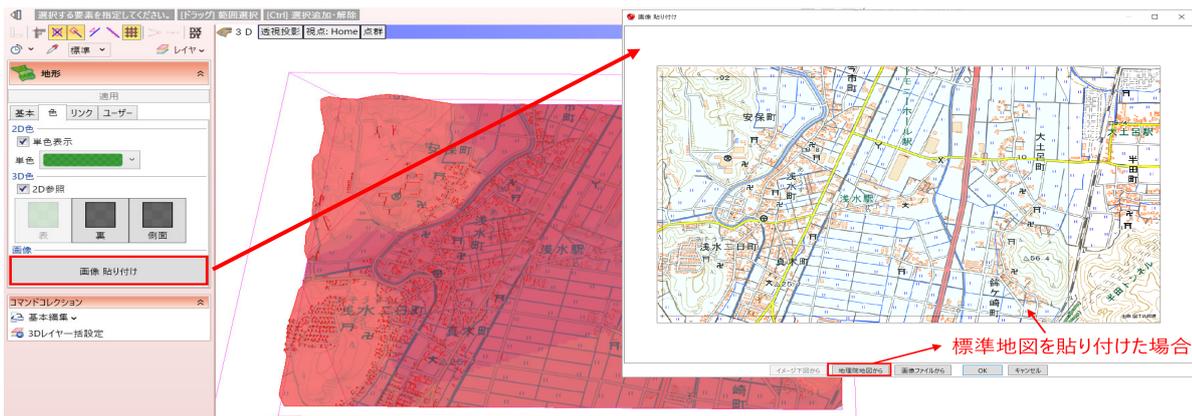
⑥TREND-COREの読み込みで、ONEから出力した、地形面と水面のLandXMLをそれぞれ読み込む



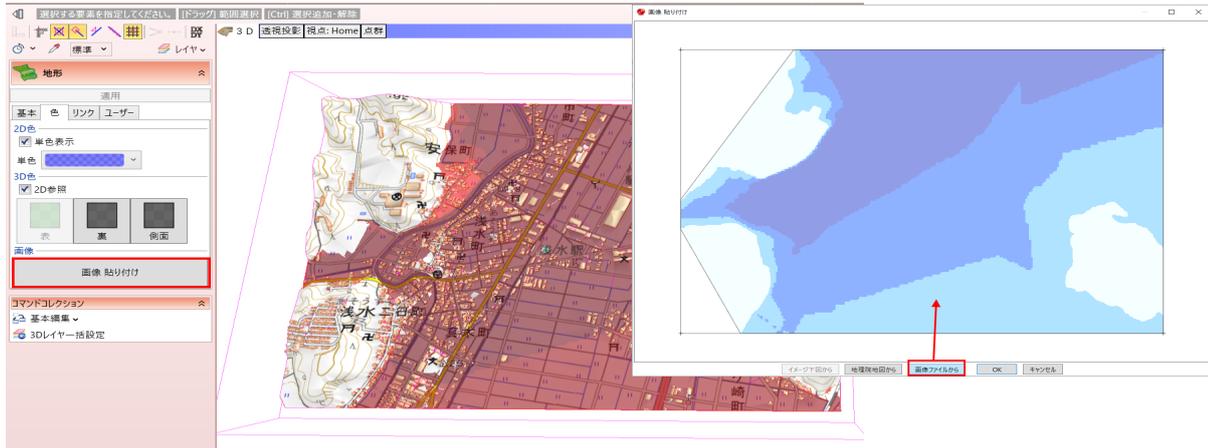
⑦読み込んだ面にそれぞれ画像を設定する

例)

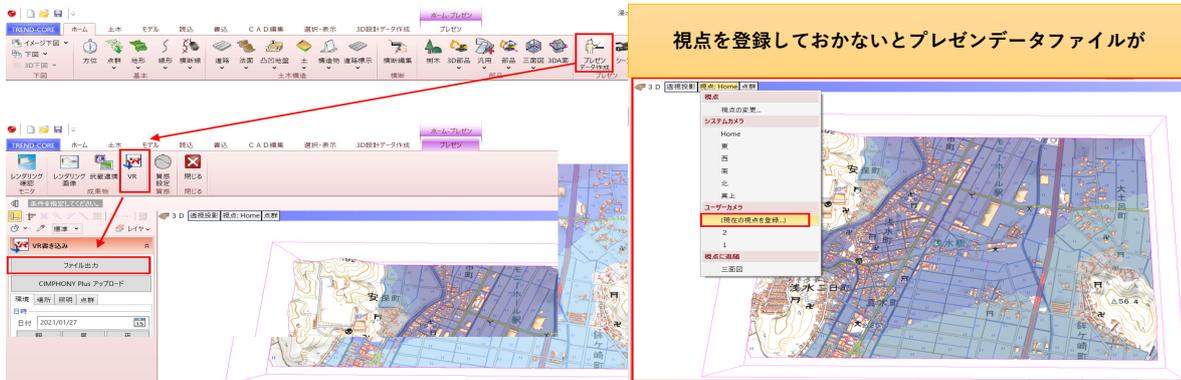
地形面：「地理院地図」の標準地図を貼り付け



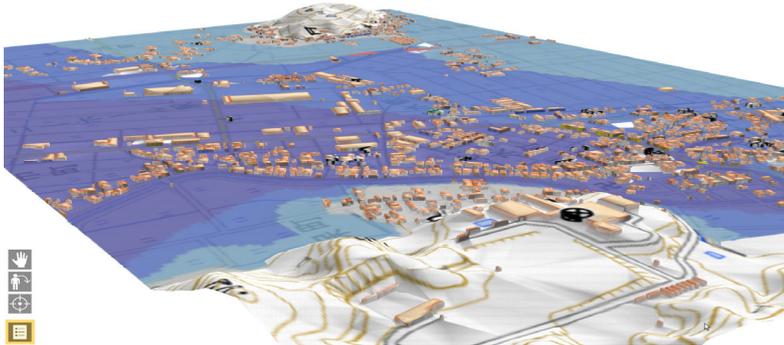
水面：「画像ファイルから」でONEから出力したヒートマップ画像を貼り付け



⑧TREND-CORE VR用にプレゼンデータを出力



⑨出力したプレゼンデータをTREND-CORE VRで確認



⑦で地形面に地理院の空中写真を張り付ければ以下のような表現も可能

